

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

地域に育まれ・地域を守る 海岸防災林について

東日本大震災から6年が経過しました。東北の沿岸部を中心に復旧・復興事業が行われており、東北森林管理局等では、街の再建や津波防災の一助となるよう海岸防災林の再生に全力を挙げて取り組んでいるところです。

さて、近畿中国森林管理局においても、古くから、地域の方々とともに、海岸防災林の整備・保全に取り組んで来ており、飛砂や潮害の防備等の役割を果たしております。今回は、海岸防災林の役割と代表的な事例について御紹介いたします。

【①海岸防災林の主な役割】

海岸防災林は、砂浜から飛んでくる砂を防ぎ、隣接する田畑や住宅を守る機能（飛砂防備）、津波や高潮の勢いを弱め住宅などへの被害を軽減したり、海岸からの塩分を含んだ風を弱め、田畑への塩害を防ぐ機能（潮害防備）、風の強い地域で、田畑や住宅などを守る壁の役割を果たし、風による被害を防ぐ機能（防風）などを発揮させ、暮らしを守り防災を目的に整備しているものです。

この機能は、海岸防災林の海岸部から内陸部に向かっての奥行き（林帯幅）がある程度確保されていることにより、より高度に発揮されることも分かっております。

また、東日本大震災以降、津波を軽減させる多重防御施策（様々な施策を組み合わせることで津波を軽減させること）の1つとして、ますます海岸防災林の役割が重要となっております。



【和歌山県新宮市・大浜海岸防災林】



【三重県紀宝町・七里御浜海岸防災林】

【②海岸防災林整備の事例～日本三大松原 気比の松原（福井県敦賀市）～】

三保の松原（静岡県静岡市）、虹の松原（佐賀県唐津市）と並んで日本三大松原の一つとされる「気比の松原」（松原国有林）は、年間13～15万人が訪れる景勝地となっております。

江戸時代末期には歌川広重により名所図会として描かれるなど、古くから地域で親しまれてきた海岸防災林です。



【「気比の松原」の全景】



【歌川広重が描いた名所図会】

(気比の松原)



【検討会の現地調査の状況】



【検討会で行ったマツの根系調査の例】

近年では、マツ枯れ被害や風雪による被害が顕著となり、健全な防災林の維持が課題となっております。

そこで、気比の松原を管轄する福井森林管理署では、学識経験者や樹木医、地元観光関係者等からなる検討会を設置し、現地の詳細調査など4回の議論を経て、平成25年3月、100年後まで健全な防災林が引き継がれるよう今後の整備ビジョンをまとめました。

現在、このビジョンに基づき、地域の小学生やボランティアの方との協働による健全な海岸防災林の整備・保全を実施しているところです。

【③海岸防災林整備の事例 ～加賀海岸（石川県加賀市）～】

白砂青松100選にも選ばれている石川県加賀市の加賀海岸防災林（加賀海岸国営林）。元禄（1688～1704）以前は多少の樹木がありましたが、明治に入り砂嵐により100m以上の幅の海岸林が埋もれ、これにつづく田畑も埋もれました。

この状況を受け、明治44年（1911年）から国（現・石川森林管理署）が海岸防災林の再生に着手。まずは、砂の移動を防止しクロマツの苗木が植えられよう防砂のための垣を設置することから始めました。なお、防砂のために設置した垣は海岸林として成立するまでの間で総延長195kmと、大阪駅から名古屋駅を超える距離となり、初期における植栽の基盤づくりに重要な役割を果たしてきております。



【明治43年 砂嵐で覆われた加賀海岸の状況】



【防砂垣の設置と植栽の状況】

現在の加賀海岸防災林の背後には、住宅地や農地、工場や高速道路が位置し、海岸防災林の機能発揮を通じて、地域の暮らしを保全する役割を果たしております。

加賀海岸防災林は、過去からの取組が評価され、「後世に伝えるべき治山」（全国で60箇所の治山事業地について有識者審査会を経て林野庁が選定（平成25年10月））の事業地として選ばれております。

近畿中国森林管理局では、今回御紹介したもの以外にも、関係県とも連携しながら、海岸防災林の整備を進めております。海岸防災林には、憩いの場としての役割もあり、地域の方々に愛され、大事にされつつ育まれてきております。

今後とも、地域の生活環境を保全していけるよう、地域の方々と一緒になって海岸防災林の整備・保全を進めて参りますので、御理解・御協力をお願いいたします。



【地元のボランティア・小学生との協働による整備・保全（気比の松原）】



【加賀海岸防災林の林内の状況】



【現在の加賀海岸防災林の状況】

お知らせ

職場見学会の開催ご案内 【学生の皆様へ】

林野庁近畿中国森林管理局は、大阪市内を流れる大川沿いに位置しており、毎年4月初旬には、約4千8百本の桜の花が見頃を迎えます。

この度、大川沿いの桜をご覧いただくとともに、私どもの職場をご見学いただく機会をもうけましたので、是非ご参加いただき、進路検討の参考にいただければ幸いです。

＊日時 4月5日（水）14：30～

＊場所

近畿中国森林管理局（総務企画部総務課集合）

大阪市北区天満橋1丁目8番75号

JR環状線桜ノ宮駅下車徒歩5分

＊定員・締切 20名 3月31日まで

＊プログラム

14：30 林野庁の組織と業務の概要説明

15：15 各部局、施設見学

16：15 職員との懇談会

17：00 解散（自由に桜をご堪能ください。）

＊その他

交通費等は自己負担となります。

業務内容はホームページでご覧いただけます。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

＊参加のお申し込み・問い合わせ先

近畿中国森林管理局 総務課

FAX：06-6881-3878

e-mail：kc_soumu@maff.go.jp

問い合わせ TEL：06-6881-3421

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/news/attach/pdf/index-2.pdf>

森林のギャラリー（局庁舎1階）

【3月のテーマ：自由展示】

3/15～3/24

森のポエム 【スモールアート協会】

シリーズ『国有林 最前線!』

石川森林管理署 手取川治山事業所 治山技術官 奥田 努

手取川治山事業所は石川県白山市白峰に所在し、民有林直轄治山事業を行っています。施行区域である「湯の谷」は、石川県最大の河川「手取川」の最上流部に位置し、面積は830ha、標高800mから2,700mに及んでいます。この地方は昔、手取湖と呼ばれる湖でしたが、1億5千万年前に隆起して陸地となり、湖底の堆積岩がこの地域の基岩となりました。この堆積岩は、手取層群と呼ばれ、砂岩と頁岩の互層で、非常に節理に富み、風化・侵食作用に対して極めて弱く、崩壊の大きな原因となっています。手取川では今日まで、様々な気象災害が繰り返されてきましたが、なかでも昭和9年7月の手取川の大水害は、死者・行方不明者109人、家屋流出240戸、橋梁流出370箇所という大災害でした。

このような気象災害が繰り返され荒廃が進んできたこと、下流域には白峰地区・桑島地区の集落や手取川ダム等の施設があることなどから、石川県から要請を受け、昭和56年度より民有林直轄治山事業を開始しました。

現在までに、溪間工66基、山腹工12.89haを施工しており、進捗率は91.5%となっています。手取川地区は白山国立公園の特別保護地区であるため、緑化工に種子等を使用しないこと、溪間工の型枠には化粧型枠を採用すること、外来種進入防止のために車両のタイヤ洗浄箇所を設置すること等の取組が行われてきました。

掲載写真は既設箇所の一例ですが、溪間工を施工することにより山脚が固定され、山腹工を施工することにより荒廃斜面の安定が図られてきました。事業着手時には荒廃していた溪流も、現在では斜面及び溪流の安定が図られ緑化しているのがよく分かります。

このように、諸先輩方や事業に携わられた皆様の努力により手取川地区の復旧が進んできました。今後も引き続き、手取川地区の概成に向けて、仕事に取り組んでいきたいと思っています。

着手時の状況 (S59)



現在の状況 (H28)



手取川地区民有林直轄治山事業区域全景



～日本最大級の山城跡～高取山国有林 奈良森林管理事務所

奈良森林管理事務所は奈良県全域を管轄区域としています。国有林野は5市3町8村に所在し、面積にして約12,000haを管理経営しています。

今回ご紹介する高取山国有林は奈良県の中央部、大和野の南方（高取町、大淀町）に位置し、山頂に国指定史跡「高取城跡」があるのが特徴となっています。面積は全域で約530haあり、高品質な木材生産林として分収林の設定も行っています。

高取城は奈良から吉野へと通じる交通の要衝として築かれた日本最大級の山城です。日本を代表する山城として「日本三大山城」とも呼ばれ、高取城跡からは北に大和三山、南には大峰山系の眺望を楽しむことができます。都市からも比較的近く、付近にある西国六番札所「壺阪寺」や「五百羅漢岩」とともに、ハイキングコースとして多くの方に親しまれています。

作家の司馬遼太郎が『街道をゆく』の中で「高取城は、石垣しか残っていないのが、かえって蒼古（そうこ）としていい。」と記した石垣が訪れた人々を迎えてくれます。

国有林では、この高取城跡を中心に周辺約14haを風景林（レクリエーションの森）に設定し、城跡を彩る風景としての林分を維持管理しています。また、最近の観光立国の動きに合わせ、高取山風景林の効果的な普及・啓発を検討しているところです。

地元高取町では、日本有数の山城（高取城）とその麓に築かれた城下町（土佐街道）を、一体的に体感できるまちづくりを推進しています。このため、高取町や関係団体と連携して、高取山風景林のPRに取り組んでいきたいと考えていますので、是非、一度足を運んでみてください。

